

## はじめに

学校や幼稚園は、子どもたちの健やかな成長と自己実現を目指して教育活動を行うところであり、その基盤として安全で安心できる環境が確保されている必要があることはいまでもありません。

しかしながら、近年、学校における事件・事故が大きな問題となってきたおり、昨年12月に京都府宇治市の小学校で発生した不審者侵入事件は記憶に新しいところです。学校における事件・事故の発生を防止し、子どもと学校の安全を守るためには、教職員全員が校内の安全管理に対する情報を共有し、施設・設備の整備や防犯教育の充実を図るなど学校の安全管理体制を確立することとともに、家庭や地域社会との日常的な連携・協力を欠くことができません。

京都市教育委員会では、開かれた学校づくりの推進を基本とした安全管理体制の確立に努め、大阪教育大学附属池田小学校事件を契機として全市立学校・園への防犯カメラシステムの配備や教職員向け安全管理手引書の作成、安全管理点検項目の改訂や安全管理機器の整備等、ハード・ソフト両面にわたる学校体制の充実を図るとともに、折に触れ、学校と家庭・地域との連携強化についてお願いしてきたところです。

このような中、各学校では、定期的な安全点検の実施や防犯研修などを通じて教職員の危機管理意識の向上に努めるとともに、多くの学校において、保護者や地域の方々、さらには警察等関係機関との連携・協力のもとで、子どもを守る取組が展開されています。

このたび、そうした学校での防犯・安全管理対策や、学校・家庭・地域の連携による取組の中から、特色ある取組を集約し、「子どもの安全確保・学校防犯実践事例集」としてまとめました。

学校・園におかれましては、保護者や地域の方々に協力を求められる際、本事例集を活用して具体的な行動提起を発信していただき、家庭・地域との連携を密にしながら、今後とも、地域ぐるみで子どもの安全を守る取組を推進されますことを願っております。

末尾となりましたが、本事例集の作成にあたりまして、事例を提供していただきました学校・園及び関係各位に対しまして、心から感謝申し上げます。

平成16年2月

京都市教育委員会

# 目 次

## 1 学校・園における取組の充実に向けて

学校安全体制を日常的な取組の中で実践	〈新町小学校〉	・・・	P	1
不審者の侵入を防ぐ日常管理の徹底	〈向島二の丸小学校〉	・・・	P	2
教職員によるパトロール体制の充実	〈陶化小学校〉	・・・	P	3
校内巡視体制の定着と安全指導	〈葛野小学校〉	・・・	P	4
子ども・保護者とともに行う防犯訓練	〈楊梅幼稚園〉	・・・	P	5
防犯訓練を通じた危機管理体制の検証	〈九条中学校〉	・・・	P	6
養護学校における自主通学生徒の安全確保	〈東養護学校〉	・・・	P	7
養護学校生徒の自立に向けた安全指導	〈白河養護学校〉	・・・	P	8

## 2 P T A ・ 地域との連携による取組

### 学校内外の安全確保に向けて

学校行事等におけるP T Aによる受付と校内巡視	〈御所南小学校〉	・・・	P	9
老人クラブなどとの連携による朝の活動	〈陵ヶ岡小学校〉	・・・	P	10
教職員とP T Aが一丸となったパトロール	〈金閣小学校〉	・・・	P	11
学校・P T A安全対策委員会による子どもの安全確保	〈桃山南小学校〉	・・・	P	12

「すずらんボランティア」による地域パトロール <醍醐西小学校> . . . . P 13

地域や隣接施設との連携による安全確保 <開智幼稚園> . . . . . P 14

## 登下校の安全確保に向けて

地域と連携して築く「人の目の石垣」 <梅小路小学校> . . . . . P 15

登校時におけるお年寄りの見守りボランティア <岩倉南小学校> . . . . . P 16

地域ぐるみの見守り活動 <第四錦林小学校> . . . . . P 17

地域全体に「子ども110番のいえ」を増加 <柊野小学校> . . . . . P 18

子ども避難場所と防犯マップの作成 <大塚小学校> . . . . . P 19

## 地域のネットワークづくりに向けて

各種団体と連携した緊急ネットワークづくり <花園小学校> . . . . . P 20

地域の人々とのつながりを大切に <川岡小学校> . . . . . P 21

「こども安心・安全ネットワーク」で子どもを守る <嵐山東小学校> . . . . P 22

こども安心・安全ネットワーク（中学校の部） <桂川中学校> . . . . . P 23

## 3 関係機関との連携による取組

警察・消防と連携した防犯・応急手当研修会 <小学校長会 東山支部> . . . . P 24

郵便局との連携による「動く子ども110番」 <小学校長会 西京西支部> . . . P 25

# 各種団体と連携した緊急ネットワークづくり

～ 近隣校区との連携・協力も深める～

## 1 取組の概要

### (1) 取組の趣旨

伏見区での痛ましい事件以後、本校区でも、子どもの安全確保のためには学校とともにPTA・地域の方々が取り組まれてきた。そうした中、平成15年12月に宇治市内の学校で、侵入者による事件が起こり、児童の安全確保のためには、学校における安全教育・防犯教育の充実や、施設設備の管理面や、教職員の研修が不可欠であると再認識した。

そして、児童の安全確保を前提とした「開かれた学校づくり」を通して、学校と家庭・地域が連携し、地域ぐるみで安全を考えていくことが必要であると考えている。

### (2) 取組の内容及び方法

伏見区の事件以後、まずPTAの方々が「自分たちの子どもは自分たちの手で守ろう。」を合言葉に、できることから始める取組として、会員の自転車への安全パトロールのプレートつけや、毎月第2木曜日に交通安全指導や朝の声かけ運動が行なわれた。

平成15年12月の宇治市内小学校での侵入者による事件を受け、学校側よりPTAも含めた地域へ児童の安全確保についての協力依頼をしたところ、PTAでは早速、今までの取組の再確認と、登下校時の声かけの強化について話し合われた。自治連合会からも同時に、緊急時には自治連合会長を中心に各種団体長への協力要請のネットワーク体制を使って協力していただくことになった。防犯避難訓練においても地域ネットワークの協力のもと訓練を実施していきたい。

これら具体的活動を通して、各種団体との連携による緊急ネットワークが、子どもの安全確保に、より強固なものとして機能していくと期待している。

さらに、近隣地域との連携も必要なため、御室小・宇多野小・双ヶ丘中・鳴滝養護・府立聾学校と本校の6校で、児童生徒の安全確保につ

いて地域と連携を深めるための協議を行った。6校校下の3自治会長と関連団体長へ、6校校長の連名で、子どもたちの安全確保のための協力依頼文を作成し手渡した。引き続き学校6校のネットワーク並びにその校下3自治会間のネットワークをより緊密に、且つ強固に保ち、子どもたちが安心して学校生活を送れるようにしたいと考えている。

## 2 実践の成果と反応

宇治市の事件から、PTAの方々も、今回はいっそう事態を深刻に受け止められ、自治会からの緊急ネットワークづくりに向けて、さらに積極的に取組を進められている。「登下校時の声かけ運動」は子どもを朝送り出す時に、通学路で声かけをしながら安全に気をつけること。「危険マップ」の見直しをし、具体的に対策を提言したこと。学校の防犯避難訓練への協力の申し出など波及効果も大きく、安全に対する意識の高揚につながっている。

## 3 実践校・園

### (1) 学校名・規模

花園小学校  
学級数11 児童数270 職員数21

### (2) 地域の様子

本校校区は、京都市右京区のJR花園駅のおよそ南北に位置している。北部には、旧芸織維大学跡地に昭和53年、25棟540戸の公団住宅が建設され、児童の4分の1はこの団地から通学している。近年、各地に集合住宅が建てられ、団地も含めた集合住宅に居住する児童が増えている。

(執筆者：校長 向井純子)

# 地域の人々とのつながりを大切に

～知っている人は安心な人（地域ぐるみの学校安全）～

## 1 取組の概要

### (1) 取組の趣旨

平成14年度に「地域ぐるみの学校安全推進モデル事業」の地区指定（文部科学省指定）を受け、学校や地域での児童の安全を守るための取組を進めてきた。この指定を受けたことで、安全教育の中に地域を意識した取組を工夫することができ、地域の方々には地域の子どもの安全について関心をもっていただく機会になった。そこで、地域での安全の素地づくりとして、子ども達にも地域での顔見知りを増やしていくことを考えた。

### (2) 取組の内容及び方法

「知っている人は安心な人」ということで、地域で顔や名前を知っている人を増やし、声をかけ合える雰囲気をつくっていく。

- ① まず校内の友達づくりから—
  - ・ 子ども間の知り合いを増やし、連帯感を育てるために、町別児童会や全校縦割りグループでのふれあい活動の充実
  - ・ 児童安全委員会による校門での挨拶運動
- ② 保護者との連携の中で—
  - ・ 地域委員と町内の子ども達とのゲーム大会の実施
  - ・ 交通立番（昨年からは全保護者が校区6ヵ所で実施）での挨拶と声かけの励行
  - ・ 授業参観時間に児童と共に避難訓練への参加
  - ・ PTA役員の校門での挨拶活動
- ③ 地域の方々と共に—
  - ・ グリーンベルトはじめ校内外の清掃活動に女性会や老人会の協力を得る。
  - ・ 「かわおかレスキュー」ステッカー（川岡地域の子ども110番のいえ）の貼付依頼。—依頼に行く児童と地域の方とのふれあい—
  - ・ 消防団員の協力による町内の夜回りへの児童の参加（火の用心）

- ・ 川岡まつり（小学校で行う地域のお祭り）での地域諸団体やPTAによる子ども達を中心にした多くの取組

まず、顔を知り、挨拶をし、短い言葉をかけ合う—このようにして顔見知りを増やしていくことで地域の中でのコミュニケーションがとれるようになり、地域の防犯に繋がることになる。

## 2 実践の成果と反応

朝の立番の保護者からは「子ども達の方からおはようといってくれるのが嬉しいです。」、お年寄りの方からは「子どもさんの挨拶から元気もらっています。」などの声が届いている。地域の方々は、川岡まつりなどの地域行事や児童との活動への参加のため気軽に来校されており、子ども達は地域の方と挨拶のできる関係を作りつつある。今後とも、子ども達に「地域で人の繋がりを築くことが自分達を守ることになる。」ということをしつかりと伝え続け、大人は範を示す必要がある。

## 3 実践校・園

### (1) 学校名・規模

川岡小学校  
学級数19 児童数564 職員数33

### (2) 地域の様子

かつてはのどかな田園地帯であったが阪急桂駅前付近の開発により交通量が増え、人の往来も激しくなり校区のほとんどが住宅地となった。狭い旧街道や交通量の激しい新山陰街道の他、阪急電車の踏み切りがあり交通安全には特別の配慮が要る。又、住宅地内など夕刻の一人歩きが心配な道路も多い。創立131年の歴史があり、学校側の働きかけに応え、協力を惜しまない人々も多い。

（執筆者：校長 青野京子）

# 「こども安心・安全ネットワーク」で子どもを守る

## ～学校・PTAが警察と一体となって～

### 1 取組の概要

#### (1) 取組の趣旨

昨年末、宇治市において刃物を持った男が小学校に乱入し、子どもを切りつけるという痛ましい事件が発生した。その後、他府県でも子どもを対象にした凶悪事件が発生している。そこで同様の事件や事故の未然防止を図り、被害から子どもを守るために、学校とPTAが警察と一体となって子どもの安全確保に関する情報の提供活動や防犯指導、防犯訓練を行った。

#### (2) 取組の内容及び方法

- ① 組織 「こども安心・安全連絡協議会」  
(事務局：桂警察署)

保育園  
幼稚園  
小学校  
中学校

- ② 活動 情報の提供活動  
防犯指導の実施  
防犯訓練の実施  
連絡協議会の開催

- ③ 連絡方法 ネットワークを通じて順次FAX送信する

- ④ 基本方針 児童の安全確保  
迅速な通報  
教職員の受傷事故防止

- ⑤ 対処要領

##### <初動措置>

注意の喚起、避難指示、通報・応援要請

##### <防犯関係>

心構え、相対時の留意事項、取り押さえ時の留意事項

##### <応急救護関係>

出血の状況、出血性ショックの状況、止血法

- ⑥ 校内への伝達

刃物等を持った者の乱入があった現場での初動的な対応の仕方や基本的な留意事項。

教師は、子どもと自分の安全を第一に。次いで、迅速な通報と警察が来るまでの時間稼ぎなど

上記のように、現場教師の対応マニュアルに沿った実技指導を含めて伝達をおこなった。

### 2 実践の成果と反応

- ・ 教職員の危機管理意識の高揚につながった。
- ・ 危機管理マニュアル「児童の安全確保と安全管理のための方策」の内容の熟知と役割分担等を再度確認することができた。
- ・ 保護者の要望に応える取組にもつながり、その成果は大きい。

### 3 実践校・園

#### (1) 学校名・規模

嵐山東小学校

学級数 13 児童数 382 職員数 23

#### (2) 地域の様子

本校は、京の景勝地、嵐山の麓の閑静な地域のなかにある。西京東支部では小規模校であり、保護者とのコミュニケーションも取りやすく、またPTA、地域ともに物心両面にわたって協力・支援を惜しまない地域である。

教育活動においても、生活科や総合的な学習の時間、図書館教育、部活動等を中心に保護者・地域の方々の協力・支援により、伝統文化や歴史、自然などを教材化できる地域である。

(執筆者：校長 大江 喬 生)

# こども安心・安全ネットワーク（中学校の部）

～保育所，幼稚園，小学校，中学校，警察署，PTAが一体～

## 1 取組の概要

### （1）取組の趣旨

こども安心・安全ネットワークは、犯罪や事故の被害から子どもを守るために、桂警察署と管内保育園，幼稚園，小・中学校及び保護者等が一体となって子どもの安全確保に関する情報提供活動や防犯指導等を行うことを目的とし、平成16年1月23日に発足した。事務局を同署生活安全課生活安全係、及び少年係に設置し、西京区内の19保育所，14幼稚園，19小学校，8中学校の合計60校・園・保育所とFAX及び電話連絡網にてネットワークを形成し、子どもの安全確保に関する情報の共有を目指している。

### （2）取組の内容及び方法

#### ① ネットワークの構築

- ・ 桂警察署及び学校等との双方向の情報提供活動を円滑に進める。
- ・ 学校等の防犯指導や学校防犯訓練における警察との連携を強化することにより訓練等の実効力を高める。
- ・ ネットワーク連絡会議を開催し、同校種間だけでなく、互いの連携強化を図ることを主な取組内容とする。

ネットワーク全校・園に事件発生時の現場教師対応マニュアルと、現場措置要領が配布・説明され、それぞれの学校・園で共通理解が図られた。

#### ② 「校内持凶器事件発生時の現場教師対応マニュアル」

- ・ 生徒の安全確保
- ・ 迅速な通報
- ・ 職員の受傷事故防止

の3点を基本方針とし、注意喚起、避難指示、通報・応援要請といった初動処置から、応急救護関係まで、全30項目にわたる対処要領が具体的な行動内容とともに提示されており、共通理解を行ったうえで、掲示している。

#### ③ 「持凶器犯人校内乱入事件発生時の現場措置要領」

6段階の初動的な対応要領が13項目にわたって具体的に示されるとともに、基本的な留意事項10則が提示され、普段からの危機管理に対する現場教職員の心構え等が示されており、同様に、共通理解を図り、掲示している。

こうした、マニュアル等の共通理解により、現場における危機意識の高揚を図り、ネットワークを活用した迅速かつ正確な情報の共有を目指す。

## 2 実践の成果と反応

関係機関との連携が強化されたうえに、各学校・園における教職員の意識は確実に高まった。

今後は、保護者はもとより、地域住民への働きかけがネットワークの重要な課題であるといえよう。

## 3 実践校・園

### （1）学校名・規模

桂川中学校

学級数18 生徒数632 職員数40

### （2）地域の様子

桂川西岸に広がる閑静な住宅地に立地する。校区は、かつては農業地帯として、また、旧丹波街道への京都の出入り口として栄えた地である。古い街並み、桂川をはじめとした豊かな自然、のどかな田園風景が今も残る一方、近年は大型マンションの建設等、住宅開発が急速に進み、新旧混在の地域として発展を続けている。

反面、登下校時に不審者が現れるなど、子どもの安全を脅かすような状況も見られ、学校、地域の一層の連携強化が喫緊の課題でもある。

（執筆者：校長 畑中義伸）

# 地域と連携して築く「人の目の石垣」

## ～ 登下校時の安全確保を図る取組 ～

### 1 取組の概要

#### (1) 取組の趣旨

附属池田小学校の事件以来、学校への不審者侵入などの犯罪はいつでも、どこでも起こりうる状況と捉えておく必要があることを踏まえ、不審者による被害防止の観点に立ち、学校・家庭・地域・関係機関の役割を明確にし、協力し合える関係作りを構築する。

#### (2) 取組の内容及び方法

##### ① PTAによる防犯ブザーの寄贈

PTA本部との緊急本部役員会を開催し、今何ができるかを討議した。全校児童の安全確保のために、年度途中ではあるが予算化を図り全児童に6年間貸与の形で進める案をまとめ、全学級代表で構成される実行委員会です承された。

##### ② PTA・学校によるステッカー付自転車による抑止活動

PTA本部役員9名及び校外委員32名の会員の自転車の前籠にラミネートした「パトロール中」のステッカーを貼り付け、自転車による外出のとき、監視者があるということをも不特定多数の人に周知することにより、犯罪の抑止力になるようにする。

##### ③ 自治連合会及び少年補導委員会による交通安全確保・安全指導

朝の交通量の多い交差点2箇所自治連合会の会長及び有志や交通対策協議会による交通安全指導と少年補導委員会有志の自

転車による安全確保のための巡回活動。PTAの校外委員による町別ごとの見送りと学校長による交通指導及び挨拶指導。

##### ④ 少年補導委員会による下校時の安全確保

平常より下校時刻に大幅な変動やばらつきが生じる場合は、教職員だけでなく、防犯推進協議会との連携の下、少年補導委員会が児童の様子を見ながら安全確保の取組を進める。

### 2 実践の成果と反応

地域の方々や各種団体と日ごろから地域行事等を通じ連携しておくことが安全確保に必要な「人の目の石垣」を築く基になることを改めて感じさせられた。

### 3 実践校・園

#### (1) 学校名・規模

梅小路小学校

学級数13 児童数338 職員数26

#### (2) 地域の様子

本校は、平成8年4月1日、元安寧校・元大内校の2校が統合してできた新しい学校である。北は花屋町通、南はJR東海道線、東は西洞院通、西は七本松通りが校区となり、東西に広い校区となった。

本校のすぐ南側には緑豊かな広々とした梅小路公園があり、東には国道1号線が通り交通の便もよく商業地域に位置付けられており、その中には、本願寺調達という商家もある。近くには、JR京都駅があり、歴史文化観光都市京都にふさわしい玄関口を構えている。西には、日本の三大水産物消費地集積市場の一つ「京都中央卸売市場第一市場」があり、その周辺には七条商店街が広がっている。

(執筆：校長 衣笠孝一)





# 登校時におけるお年寄りの見守りボランティア

～ 社会福祉協議会との連携を通して～

## 1 取組の概要

### (1) 取組の趣旨

「地域の人達との顔見知りの広げ」を目標の一つとした取組は、以前より、朝の校門での「挨拶運動」、登校時における校区要所での安全のための「立ち番ボランティア」、放課後の「部活動指導」、休日の「ふれあい体験活動」など、PTAや地域の皆様のおかげで、充実を図れてきたところである。

しかし、不審者の侵入による児童への危害事件が相次ぐ中、もはや聖域でなくなった学校は、学校防犯体制の整備だけでなく、地域ぐるみの見守りが、ますます重要と認識している。

### (2) 取組の内容及び方法

上記のような状況の折、岩倉地区社会福祉協議会を通じてボランティアのお申し出があった。

協議会に登録しておられる元気なお年寄りが、子どもの登校に合わせて散歩や植木の水やりをし、さりげなく子どもたちを守ろうというものである。子ども達のために地域のネットワークが豊かになっていくのは、願ってもない話と受け止めさせていただいた。

このボランティア活動は、「学校だより」でもお知らせし、さらに、このアイデアを生かしたご支援を、地域の方すべてにお声かけしていると思っている。



## 2 実践の成果と反応

このボランティア活動は、まだ始まったばかりである。社会福祉協議会の事業の恩恵を受ける立場のお年寄りが、逆に社会奉仕の主体者として、自ら社会参加されることに感動すら覚える。

日常生活の中のさりげない一コマとしての活動であるが、地域ぐるみの守りという観点から、これ以上の力強いものはない。

「地域の子供は、地域で守る」これを機に地域の皆さんの意識が、ますます高まっていくことを喜びとしたい。

## 3 実践校・園

### (1) 学校名・規模

岩倉南小学校

学級数 16 児童数 485 職員数 29

### (2) 地域の様子

本校区は、京都市の北部、岩倉盆地の南半分を占める位置にある。旧村地域を一部含むものの校区のほとんどは、ここ数十年の間に形成された住宅街からなり、田畑もまだ少し残る自然環境にも恵まれた地域である。

(執筆者：校長 川上 眞 男)

# 地域ぐるみの見守り活動

～「より多くの目で、無理なく長続き」する活動～

## 1 取組の概要

### (1) 取組の趣旨

近年、子どもを狙った連れ去り事件が増加してきており、登下校時の一層の安全を願い、PTA・地域の諸団体・地域住民に協力を求め、児童の登下校安全対策として「地域の見守り活動」に取り組んだ。

### (2) 取組の内容及び方法

子どもを一人にしない、させない取組

- ① それまでの自由登校をグループ登校に変更し、子どもをひとりにしない取組を始める。
  - ・ グループは家が近い児童5人から6人のグループにする。
  - ・ 保護者は可能な限り集合場所まで送る。
- ② 下校時は、誘い合って帰るように指導する。

#### パトロールの日常化

PTAや少年補導委員会によるパトロールを始めたが、負担が大きく、継続が難しいと感じた。「より多くの目」で子どもたちを見守ってほしい」「いかに無理なく**長続き**させるか」が取組を始めてしばらくしてからの課題となった。

そこで、地域の人たちの日課である「散歩・門はき・草花の世話」などを子どもたちの登下校の時間に合わせて行ってもらい、子どもたちを見守ってもらえば、無理なく継続できると考えた。

- ① PTA・少年補導委員会と学校の連名で「見守ってください!」のポスターを作成した。
- ② PTA地域委員が、それぞれの地域毎に、子どもたちが登下校に通る時間帯を、ポスターに記入し、各地域に掲示して「見守り活動」参加を地域住民に呼びかけた。
- ③ 学校から地域住民に、学校便りの地域回覧版で、また、地域の行事や会合などの機会に、「見守り活動」への参加協力を呼びかけた。
- ④ 2年以上経過した現在、活動に参加している人は、100を超えるまでになり、参加者数は増加する傾向である。



## 2 実践の成果と反応

登校時間は多くの人たちに見守られているが、下校時間は学年によってバラツキがあり、目が届かないこともある。また、すぐに成果が現れるとは言い難いが、子どもを見守るネットワークは広がりつつあると思う。

- ① 取り組み始めて以後、心配な事件や、事件に繋がりそうな出来事は一件も起こっていない。
- ② 学校と地域のつながりが深まっている。
- ③ 子どもたちと地域の人たちのふれあいが広がりがあいつがができる子どもが増えている。

## 3 実践校・園

### (1) 学校規模

第四錦林小学校

学級数 10 児童数 259 職員数 21

### (2) 地域の様子

学区は、東一条通を中央に、西は鴨川、東は吉田山を越えたところまで、東西に広がっている。京都大学のキャンパスがあることから、学術の町として発展してきた地域であり、三世同居の家庭も比較的多く、落ち着いた雰囲気のある住宅街である。自治連合会、各種団体協議会等の活動は組織的になされていて、学区民の自治に対する関心は高い。

(執筆者：校長 海原清子)

# 地域全体に「子ども110番のいえ」を増加

## ～地域住民が一体となった防犯意識の向上～

### 1 取組の概要

#### (1) 取組の趣旨

- ① 西賀茂中学校地域生徒指導連絡協議会では、柘野学区・大宮学区の安全について、標語や看板づくり・パトロール等の取組をしてきているが、地域の広さに比して「子ども110番のいえ」が少ないことが問題としてあげられた。そのため、各々のPTAの地域委員にお願いして、地域の広さに応じた数に増やし、より一層児童・生徒の安全確保を図っていくこととした。
- ② 校区内には人通りの少ない所や人の目に付きにくい場所が多くあるため、登下校時や帰宅後、子どもが安心して安全に生活できるように、柘野地域住民が一体となった防犯意識向上の取組を緊急に行っていくこととした。

#### (2) 取組の内容及び方法

- ① 「子ども110番のいえ」を増やしていくために、上鴨警察署へプレートを50枚ずつ依頼する。
- ② 地域全体でほぼ均等に「子ども110番のいえ」が点在していくように各町内2軒ずつ増やす。
- ③ 「子ども110番のいえ」設置条件に適する家をあらかじめPTA地域委員で選び、その家庭へ協力依頼する。
- ④ 「子ども110番のいえ」のプレートは、家の玄関先や子どもたちの見えやすい場所に、必ず掲示するように伝える。
- ⑤ 児童の意識や認識を高めるために、学校(門扉・玄関ドア・校長室)にも貼る。
- ⑥ 「子ども110番のいえ」が記入されている校区の安全マップをPTAより各家庭に配布する。
- ⑦ 柘野地域で構成されている「子供たちの安全を守る会」へ「子ども110番のいえ」が記入されている安全マップを渡し、より一層校区の安全確保に役立てていただく。

### 2 実践の成果と反応

設置当初「子ども110番のいえ」は20軒であったが、平成13年度に30軒増やした。また今回50軒増やし、倍増の100軒になった。

このところ増え続けている誘拐や連れ去り事件が起こるたびに、保護者や地域の方は自分の住んでいる地域でも起こらないかと心配されている。

「子ども110番のいえ」を増やしたことで、地域住民は自分たちの手でなんとか子どもを守ろうという防犯意識が高まってきている。

### 3 実践校・園

#### (1) 学校名・規模

柘野小学校

学級数 22 児童数 639 職員数 35

#### (2) 地域の様子

京都の7つの野の1つに数えられる柘野学区は、北区上賀茂・西賀茂の北部賀茂川をはさみ、東西にまたがる25町内約2530世帯で構成されている。校区の東南部は上賀茂神社に接し、商店がいくつかある。東北部の山手には、京都産業大学がある。田畑の広がる田園地帯であったが、ここ10年ほど前から西賀茂を中心に住宅化が進み、人口増となってきている。

今後もこの傾向は続き、数年後には全児童数が800人近くになる勢いである。校区が広く、田畑が散在し、坂道が多いので、防犯・交通安全について心配な所がたくさんある地域である。

(執筆者：校長 美川 満)



# 子ども避難場所と防犯マップの作成

～大塚学区子どもを守る連絡協議会～

## 1 取組の概要

### (1) 取組の趣旨

子を持つ親を震撼させた神戸の痛ましい事件の後、地域全体で子ども達の行動により一層目を向け、痛ましい事件が二度と起きないよう見守っていこうという趣旨で「大塚学区子どもを守る連絡協議会」が結成され様々な取組が始まった。

### (2) 取組の内容及び方法

#### ① 組織

「大塚学区子どもを守る連絡協議会」  
各種団体、PTA、小・中学校の12団体で構成

#### ② 具体的な活動

<子供ひなん場所>

ポスターの作成と掲示

学区内約600軒に掲示の要請と協力

<情報連絡所>

ポスターの作成と掲示

不審者情報の収集（情報メモ）

学区内約200軒に設置

<防犯マップ>

作成と配布

学区内を隈なく歩き、危険箇所、事故が多発する場所等コメントを添え地図に記入し、全戸に配布。



## 2 実践の成果と反応

- ・ 地域全体で子どもを見守っていこうとする意識が高まった。
- ・ 学区内いたる所に「子供ひなん場所」「子ども110番の家」のポスターが掲示してあり、犯罪に対する抑止効果となっている。
- ・ 朝の声かけ運動や地域委員を中心に全保護者の立ち当番等、PTA、教職員の安全意識の向上につながった。

## 3 実践校・園

### (1) 学校名・規模

大塚小学校

学級数 24

児童数 758

職員数 46

### (2) 地域の様子

校区は、京都市の東の玄関口に位置し、国道一号線や名神高速道路、東海道新幹線が通る交通の要所にある。学校の東側には音羽山がそびえ、近年宅地化が進んできたとは言え、まだまだ自然が多く残されている。一方、学校の西側は、住宅地が広がり、小さな町工場や商店が点在している。また、幹線道路沿いには、大小様々な店舗があり、人の出入りの多い地域といえる。

(執筆者：校長 河合早智子)



# 学校行事等におけるPTAによる受付と校内巡視

## ～IDカード（保護者証明書）を着用して～

### 1 取組の概要

#### (1) 取組の趣旨

本校は「地域に開かれた学校」を目指し、外観も開かれているイメージをもってもらうために正門や壁がない構造になっている。また校区が広く統合したこともあり地域の方など人の出入りも多い。そのため、開校当時から子どもの安全を守るためにPTAや地域と協力して、パトロールや登校時安全指導に取り組んでもらっている。

附属池田小学校の事件後、学校に不審者の侵入がないように、IDカード（保護者証明書）の着用や多数の人が来校する行事等に受付、校内巡視の取組をしてもらうことになった。

#### (2) 取組の内容及び方法

##### ① 休日運動会における受付と校内巡視

日時 平成15年9月23日（祝・火）  
午前8時30分～午後4時

組織 PTA本部役員およびクラス役員

活動 運動場の入口で受付をする。その際、IDカードの着用を確認し、忘れられた場合仮IDカードを貸し出し、着用してもらう。地域の方には、黄色のリボンを着用してもらう。

当日までに巡視する場所と時間を割り振ってもらい、運動場の巡視をしてもらう。

##### ② 研究発表会における受付と校内巡視

日時 平成15年11月21日（金）  
午前9時～午後4時15分

組織 PTA本部役員および募集による保護者ボランティア

活動 PTAの方に受付をしてもらい、参加者に名札を渡し、着用を促してもらう。階段前やホールなどに立つ、空き教室などの巡回をしてもらう。

##### ③ 参観・懇談会時における受付

組織 PTA本部役員、教職員

活動 PTAの方に受付をしてもらい、ID

カード着用のチェックと忘れた保護者に仮IDカードを渡してもらう。

### 2 実践の成果と反応

- ・ PTAの方が受付でIDカード着用を呼びかけてくださったことで、IDカード着用が意識づけられ、着用率が増えた。忘れて来られた保護者の方も職員室に仮IDカードを必ず取りに来られるようになった。
- ・ 運動会でのリボン着用の取組は、安全に関する地域への啓発ともなり、登下校時に児童へ声をかけてくださる方が増えた。

### 3 実践校・園

#### (1) 学校名・規模

御所南小学校

学級数23 児童数723 職員数47

#### (2) 地域の様子

学区は、平安建都のころから形成された市街地で、古くからの町家が多く残り、道路が基盤の目状に通っている。歴史のある町並みが続いており、三世同居している家庭も少なくない。その一方で近年マンションが多く建ち、これらの住宅に居住する児童が全体の半数近くになってきている。

本校は明治の初め、全国に先駆けて町衆の力によって「番組小学校」として創設された5校が統合し、平成7年4月に開校した学校で、この地域では昔から地域の子どもは地域で育て守るという気風が受け継がれている。

（執筆者：校長 村上美智子）

# 老人クラブなどとの連携による朝の活動

## ～朝の掃除と校門前の安全確保～

### 1 取組の概要

#### (1) 取組の趣旨

数年前から、学校近隣の老人クラブの方が朝、学校の周りを清掃してくださっていた。その活動が老人クラブ連合会に広がり、地域で子供たちを見ていこうという気運につながっている。

#### (2) 取組の内容及び方法

##### ① 朝のそうじ

参加者 陵ヶ岡老人クラブ連合会 毎回数名  
児童 1～6年の1クラス（輪番）  
児童会役員 担任 教務主任

取組日 月・水・金

時間帯 8：10～8：30

取組 正門周辺・中庭などの清掃活動を子供たちが老人クラブ連合会の方々と共に行う。その後、地域にまつわるお話や昔話を伺う。



##### ② 正門前の立ち番

参加者 陵ヶ岡自主防災会

取組日 毎日

時間帯 8：00～9：00

取組 校門の前の横断歩道に立ち、子供たちの登校を見守る。



### 2 実践の成果と反応

- ・ 登校時に、正門付近・中庭などに大人がいてくださることが、不審者の侵入抑止になっている。
- ・ 清掃活動などを通して、地域の方と顔見知りになり、家に帰ってからも声をかけていただくことが増えてきている。

### 3 実践校・園

#### (1) 学校名・規模

陵ヶ岡小学校（学級数 15 児童数 353）

#### (2) 地域の様子

学区は、京都市の東部に位置し、地下鉄御陵駅を中心とする商業地域、山科疏水・天智天皇陵からJRに至る住宅地域によって構成されている。また、15才未満の人口が9.0%、65歳以上の人口が30.1%、山科区の中では最もお年寄りの多い校区である。

（執筆者：校長 吉田 茂雄）

# 教職員とPTAが一丸となったパトロール

## ～子どもたち一人ひとりをどう守っていくのか～

### 1 取組の概要

#### (1) 取組の趣旨

附属池田小や宇治小事件の後、特に保護者から学校内への侵入や避難・誘導、連絡体制への不安が広がり、昼間留守家庭や通学距離の長い家庭からは、登下校時においても心配である旨、連絡が相次いだ。

以前からPTAの組織のひとつである「愛護委員会」（以下委員会という。）の機能を見直し、学校教職員との連携やパトロール強化など、できることをすぐさま取り組んだ。

#### (2) 取組の内容及び方法

##### ① 愛護委員の役割の見直し

従来より交通量の多い道路や狭小道路を40分間に約500人が一列になって通行しているところもあり、委員が順に危険箇所によって、安全確保を行ってきた。しかし、最近の防犯への不安もあり、約15箇所において、交通安全と防犯両方に目を向けてもらっている。委員同士の連絡体制、学校やPTA役員との連絡体制も確立している。

また、委員だけでなく、近くの保護者にも下校時の子どもへの声かけをお願いしたり、情報交換や連絡体制を整えて普段からの連絡をこまめに取っている。

##### ② 登校時の校区内パトロールの実施

校区内パトロールの強化を図るため、管理職や教職員が毎日ルートを変えてパトロールを行ったり、危険箇所での安全指導を行ったりすることで、防犯意識の高揚につなげている。

##### ③ 校門の開閉

正門、西門の開門時には、教職員が横について声かけ指導を行っている。

##### ④ 下校時の校区内パトロール

学年ごとに日を決めて、コースごとに集団下校を行い、担任と一緒に下校しながら安全指導を行う。

下校時のチャイムと同時に、全校教職員が

一斉に下校指導を行い、管理職が校区内パトロールを行う。

⑥ 防犯パトロール実施中のポスターを作成し、校区内に配布した。

⑦ 教職員が教室と職員室の往路、復路を意識的に変えながら、いろいろな場所の安全管理や子供への言葉かけを全教職員が行うようにする。

⑧ 校内避難および連絡体制の訓練の実施

⑨ 部活等の終了時刻の厳守と個々の子どもへの安全指導。

### 2 実践の成果と反応

この間の学校からの連絡やお知らせ、取組については、保護者の安全意識高揚に確実に成果が見られる。特にPTAと教職員が目に見えて行動する様子は、地域全体から「一緒にできることをしていかなば。」という、自分たちの問題としての捉え方が見え始めている。

### 3 実践校・園

#### (1) 学校名・規模

金閣小学校

学級数 23 児童数 720 職員数 43

#### (2) 地域の様子

校区に衣笠山、金閣寺があり、紙屋川を中心に鏡石から衣笠、平野と西大路通りを挟んで東西に旧市街があり、赤坂、氷室より北側に、原谷地区を設け、それぞれおよそ半数ずつの児童が学校に通学している。南北に長く、特に原谷や鏡石へは、徒歩30分から70分の坂道で、人通りも少ないため、防犯、安全確保には、従来より強い関心がある。

（執筆者：校長 中野 準一）

# 学校・PTA安全対策委員会による子どもの安全確保

～ 地域で子どもを守る町づくりの推進～

## 1 取組の概要

### (1) 取組の趣旨

平成14年11月、平成15年4月に子どもの安全について話し合っていたが、平成15年5月に近くの宇治川で事故(他区の方)の一報が入った時、緊急対策本部を設置した。これを契機に本格的な学校・PTAとの対策委員会が必要不可欠と考え立ちあげた。この委員会は、子どもの安全に関わる全般的な事について話し合う機関である。

### (2) 取組の内容及び方法

#### ① 第1回安全対策委員会

(H15. 6. 24 午後3時30分～午後7時)

今年度の取組について

- ・ 組織及び規約の制定
- ・ 危機管理マニュアルの作成
- ・ 「こども110番の家」の再調査及び依頼
- ・ 本校「子ども安全の家」の旗とプレートの作成及び協力依頼
- ・ 「パトロール中」(自転車前籠用)プレートの作成及び協力依頼

#### ② 第2回安全対策委員会

(H15. 8. 28 午後3時～午後5時)

自治連合会、学校評議員を交えて会を持ち、趣旨説明をし、協力を依頼する。

#### ③ 第3回安全対策委員会

(H15. 11. 19 午後3時30分～午後6時)

- ・ 「子ども安全の家」の旗70本、プレート80枚作成。全部協力していただいた。
  - ・ 安全マップ作成経過報告
- ④ 第4回安全対策委員会  
(H16. 1. 14 午後5時～午後7時)
- ・ 組織及び規約の検討
  - ・ 学校、PTA合同防犯研修会実施について(平成16年2月10日)

## 2 実践の成果と反応

この委員会からの発信でPTAはもとより地域の安全に関する意識の高揚につながった。警察、地域防犯推進委員会とも連絡を取り合うことで地域で子どもを守るという意識ができたと思う。地域の絆が少し強まった手応えを感じる。

## 3 実践校・園

### (1) 学校名・規模

桃山南小学校

学級数18 児童数544 職員数32

### (2) 地域の様子

本校は宇治市に隣接する伏見区南部に位置し、北に山科川、南に宇治川が流れ、東には堂の川につながる木幡池があり、水に囲まれた地域である。

校区は住宅地であるが、大きな公団団地と最近建ったマンションがある。この団地から通学する児童は全児童数の43%に当たる。桃山南口駅前には小さな商店街、団地の側には大きなスーパーマーケット、コンビニがある。

(執筆者：校長 松屋 操)





# 「すずらんボランティア」による地域パトロール

～子どもへの関わりを増やして危険な誘惑から守る～

## 1 取組の概要

### (1) 取組の趣旨

上記のような地域の実態を踏まえ、保護者の中から「子どもたちへのかかわりを増やしたい。」「子どもたちを危険な誘惑から守りたい。」と、自主的に活動が始まった。

### (2) 取組の内容及び方法

#### ① 読み聞かせの会

毎週金曜日の昼休みに低学年児童を対象に、保護者が絵本の読み聞かせを実施している。「すずらんボランティア」のメンバーが交代で役割分担をして紙芝居風に読み聞かせを行っている。また、金曜日の読み聞かせの会の前に集まって朗読・音読の練習も行っている。

#### ② 地域パトロール

約25人のメンバーのうち都合のつくメンバーがお互いに時間を打ち合わせて、夏冬春休みなどの長期休業中や、土日の学校が休みの日と木曜日の放課後の本校教職員がパトロールしにくい時間帯などを中心に、数人がグループになって「醍醐西地域パトロール」の腕章をつけ、本校に隣接する大型スーパーや飲食店街地域内の公園などを見回っている。

活動を始めたころは、児童がスーパーなどへ出入りして問題行動に巻き込まれることを防止しようとパトロールを始めたが、伏見区や附属池田小の事件をきっかけに、校区内集合住宅周辺の安全確保を目的に地域パトロールも行うようになった。

各メンバーが居住する集合住宅を区割りし、担当街区をスタートしてスーパー内のゲームセンターをゴールにしている。

特に気になることや、問題があったりすると、学校へ連絡し連携をとっている。

すら」読み聞かせておられる姿を見聞きして、感動をしている。

また、実際に点字本に触れ、障害についても関心を高めるきっかけになっている。

読み聞かせや地域パトロールを通して、保護者と子どもたちとのつながりができたり、スーパーなどで遅くまで遊ぶ子が減ったり、少しずつではあるが子どもたちを地域保護者みんなで守ろうとする動きが出てくるようになってきた。

あわせて、スーパー側も腕章をつけてパトロールをする保護者に協力的になり、保安員と一緒に回っていただけることもある。

## 3 実践校・園

### (1) 学校名・規模

醍醐西小学校

学級数14 児童数338 職員数28

### (2) 地域の様子

本校区は、伏見区醍醐の北部に位置し、外環状線沿い地下鉄醍醐駅に隣接している。

近年京都市の開発事業によって、校区内市営住宅が改築され、70棟を超える集合住宅で構成されている。

市営住宅の高層化や新設に伴って、市内はもとより市外からの転入も増え、ここ3年間で児童数・学級数が2倍近くに増えた。

また、本校の南隣に「大型スーパー」や西側に「集合商業施設」「京都市公共施設」などができ、校区内ですべての生活用品がそろうようになった。

生活が便利になり人口が増加する中で児童の生活実態は、昼間や夜間保護者不在の家庭の割合が高く、地域全体での児童への安全対策やサポートが必要になってきた。

(執筆：校長 松岡 静子)

## 2 実践の成果と反応

ボランティアの中に視覚障害のある保護者がおられ、絵本を点字に訳した点字本を使って「すら

# 地域や隣接施設との連携による安全確保

## ～ 地域の方の来園と安全管理体制 ～

### 1 取組の概要

#### (1) 取組の趣旨

附属池田小学校の事件後、子どもを犯罪の被害から守るために、幼稚園の安全管理体制等の整備、防犯教育の充実、施設の整備、教職員や保護者等の一層の危機管理意識の向上等を図り、隣接している学校歴史博物館との連携をとりながら、安全確保の徹底を図る。

#### (2) 取組の内容及び方法

① 毎月の行事予定を事前に地域の町内会長にお渡しし、自治会組織を通じて回覧していただいている。このことにより、幼稚園行事があるときなど、保護者をはじめ地域の方々も来園され、より多くの人の目で子どもを見守ることにつながっている。

このように、幼稚園の行事を通じて地域と連携を図っていくことは、幼稚園への理解を得ることは勿論のこと、防犯上についても大切な取組である。

② 隣接している学校歴史博物館の門が終日開門状態であるため、グラウンドで保育を行う場合は、全教職員が笛などを持ち、危険な状況になれば、すぐ笛を吹く等、緊急対応できる体制をつくり、安全確保の徹底を図っている。

また、グラウンドに通じる門の二ヶ所を終日施錠し、不審者の侵入を防ぐ等、学校歴史博物館と連携を取りながら、門の施錠管理を徹底し、改善を図っている。

とで、幼稚園での子どもの生活などに関心を持っていただけることが地域ぐるみの安全につながってきている。

学校歴史博物館グラウンドに通じる門や通園門の施錠管理・安全確保等、地域・保護者の理解・協力についても深まりがみられてきた。

### 3 実践校・園

#### (1) 幼稚園名・規模

開智幼稚園

学級数 3 園児数 60 職員数 7

#### (2) 地域の様子

本園は、京都市の中心部に位置し、商業地域で電化製品販売や漆工芸、扇子、和装、和紙など、京都の伝統産業を営む町によって構成されている。

近年、社会が大きく変動していく中で、京都の三大祭の祇園祭や時代祭を地域行事として支え、伝統を継承している。このような支えは、幼稚園、家庭、地域の相互連携にも見られる。

「地域の子どもは、地域で育てる」という取組が浸透し、意気込みが感じられる。

また、校種を超えた異年齢の子どもたちが、地域とともに活動や交流ができる行事等の取組が進められている。

子どもの安全を確保するために、幼稚園や家庭は勿論のこと、地域をあげて協力体制を組み、実施されている。

(執筆者：園長 鈴鹿 幸子)

### 2 実践の成果と反応

地域の方々に幼稚園の行事を知らせるこ

# 学校安全体制を日常的な取組の中で実践

## ～ 不審者侵入未然防止対策～

### 1 取組の概要

#### (1) 取組の趣旨

最近の児童に対する殺傷事件等の発生は、学校の安全を維持し、安心して児童が学校生活を送ることができる学校安全管理体制確立への警鐘としてとらえている。特に、伏見区、附属池田小、宇治小で発生した事件は、不審者の侵入が決して他人事ではなく、どこにでも起こりうるものであり、教職員の危機管理意識の向上と日常的な取組の必要性を再認識させるものである。今一度学校安全体制を見直し、日常的な取組の実践をさらに充実し、子どもの安全確保の徹底を図る。

#### (2) 取組の内容及び方法

##### ① 校内巡視等による安全管理と不審者の侵入防止の具体策

- ・ 児童の登下校時、正面玄関と東門に教職員が監視に立つ。
- ・ 休み時間や放課後は、当番の職員、管理用務員が運動場に出て児童の安全を確保する。
- ・ 各部屋や各階の管理責任者は、休み時間や放課後等に日常的に巡視し、その結果を教頭に報告する。
- ・ 教職員は、外部からの人の出入りを常時確認すると共に、来訪者に対しては積極的な声かけを励行する。
- ・ 授業中は、児童の安全確保のため、管理用務員を中心に担任以外の職員が定期的に校内を巡回し、児童の状況や校内の様子を把握する。
- ・ 不審者の侵入があれば、直ちに非常ベルを鳴らして全校に知らせると共に、マニュアルに沿って対応し、まず、児童の安全を確保する。
- ・ 児童が登校した後、学校周辺のパトロールを管理用務員が実施する。
- ・ 児童の下校時、学校周辺のパトロールを2人体制で実施する。

##### ② 家庭・地域・関係諸機関との連携による安全確保のための具体策

- ・ 教職員は、家庭や地域諸団体の行事に積極的に参加することを通して人々とのつながりを深め、不審者を発見しやすい状態を常につくっておく。
- ・ 学校への出入りは、通用門を使用することや、学校を利用する時は事前に連絡する、名札を必ず着用するなど徹底した協力体制づくりをする。

### 2 実践の成果と反応

- ・ 全教職員で役割を分担することにより、より緻密な安全体制を確立することができた。
- ・ 教職員の安全管理意識が向上してきた。
- ・ 家庭及び地域の方々との情報交換や連携を密にすることによって、安全に対する意識や対応策についての認識も高まり、協力体制がより深まった。

### 3 実践校・園

#### (1) 学校名・規模

新町小学校

学級数 15 児童数 439 職員数 31

#### (2) 地域の様子

上京区の京都御所の西方に位置する小川・中立の2小学校と滋野学区の2校1地域の統合校として平成9年4月に開校した小学校である。碁盤の目のような街並みに西陣織関係・自営業・会社勤めなど様々な職業に携わる人々が居住している。校区内には、京都府庁や警察本部、病院、宿泊施設などもあり、静かで落ち着いた街の雰囲気がつくり出されている。また、お茶や焼物、塗り物の家元もあり伝統文化の香りも高い校区である。

(執筆者：校長 島田尚夫)

# 不審者の侵入を防ぐ日常管理の徹底

～従来の取組に加えて新たに取り組む安全確保～

## 1 取組の概要

### (1) 取組の趣旨

近年、学校に不審者が侵入し児童に危害を加えるという悲惨な事件が続発していることに鑑み、児童の生命を守り、安全・安心な学校を目指す観点から、児童の校内安全管理体制のさらなる確立を図ることを目的とし、従来の取組に加えて新たに取り組む内容も含めて再確認を行った。

### (2) 取組の内容及び方法

- ① 職員は、防犯ベルの携行を徹底する。
- ② 来校者には自分から率先して挨拶し、「失礼ですが」等の丁寧な対応で来校用件を確認する。
- ③ 正門は、午前8時～8時35分、午後1時45分～4時の間のみ開放し、それ以外の時間は閉門、かんぬきをかける。その間の出入りは小門から行う。



- ④ 職員の自家用車等での退勤は、自ら正門を開けて車を出した後、自ら閉門する。北門は、従前通り職員の出勤時間以外は閉門する。
- ⑤ 児童が教室を離れる中間休み、給食時間、昼休み、掃除時間などは、防犯カメラを用いた担任外による小門の見張りを当番制で行う。

- ⑥ 担任は、始業チャイムが鳴ると同時に教室に赴く。
- ⑦ 担任は、給食時間、清掃時間は必ず児童と共に行動する。
- ⑧ 管理用務員による校内巡視を強化する。(特に死角となる場所)
- ⑨ 部活動実施後の下校については、全校体制で各街区毎に複数教員で下校指導する。
- ⑩ 懇談会(個人懇談も含む)の時は、完全下校とする。

## 2 実践の成果と反応

- ・ ほとんどの児童が登校時間内に登校しようとするなど、行動に変化が見られるようになった。
- ・ 教職員の危機管理体制の再確認ができた。
- ・ PTAの安全に対する意識が高まった。
- ・ 不審者侵入時における、児童に恐怖感を与えない緊急校内放送の方法を確立した。
- ・ 児童に対する的確な避難指示の方法についての共通理解を図ったが、今後とも研修を積み重ねて安全性の確保を図る。
- ・ PTAや学校出入りの業者の方には大変不便をおかけしているが、閉門に関しては事前の文書による趣旨説明で快諾いただき実施している。

## 3 実践校・園

### (1) 学校規模

向島二の丸小学校

学級数14 児童数278 職員数29

### (2) 地域の様子

本校は京都市南部に位置する向島ニュータウンの建設にともない昭和51年4月に開校した。緑の木々の中を小川が流れる中央公園、子どもが自由に遊べる運動公園、銀行、商店が集まるセンター街。近鉄向島駅に向かうカラー歩道の横にある向島図書館がある。

(執筆者：校長 金澤 範義)

# 教職員によるパトロール体制の充実

## ～全教職員で児童を守る危機管理意識～

### 1 取組の概要

#### (1) 取組の趣旨

附属池田小学校の事件の後、校内の安全を確保するための一つの取組として、教職員による校内パトロールを実施した。そして、今回の宇治小学校での事件を受け、パトロール体制の充実を図るために、管理用務員、専門幹など教職員による校内パトロールを実施している。

学校の安全を守るためには、まず学校教職員の意識を高め、全教職員で児童を守っていく姿勢が何よりも大切である。また、教職員が校内パトロールすることによって、児童の不安も軽減され、かつ安全意識の高揚につながるものと考えられる。

#### (2) 取組の内容及び方法

##### ① パトロール体制

校長、教頭、教務主任、養護教諭、加配教員、管理用務員（2名）、専門幹  
(担任は教室の安全確保)

##### ② 実施日及び時間帯

すべての授業日

午前9時から午後4時まで、1時間単位

##### ③ 活動内容

<校内パトロール>

附属池田小学校の事件後、実施していたが、一部の教員だけの取組になっていて、学校全体としての危機管理意識を高揚するまでにはなっていなかった。

全教職員で、学校として実施することに大きな意味があり、職員会議を通して、再度学校安全について共通理解を図った。

実施方法は、午前9時から午後4時までの7時間を7区分し、1時間単位で割り当てられた時間帯をパトロールする。パトロールする場所は、校舎内及び校舎周辺。パトロール後、校内パトロール日誌に記入することになっている。

<地域パトロール>

校内パトロールと同時に、地域パトロールを定期的実施している。地域パトロールは、

主として教員が、放課後児童公園、公団付近など5ヶ所を重点地域として毎週2人組の当番制で行っている。地域パトロール日誌をパトロール実施後記入し、特に知らせたいことに関しては、職朝にて報告している。

### 2 実践の成果と反応

計画的、組織的にパトロールを実施することによって、学校安全に対する教職員の意識の高揚を図ることができると同時に、以下のような効果をもたらすことができると考えられる。

- ・ パトロールに対する責任感を高める。
- ・ 来校者に対する適切な対応ができるようになる。
- ・ 危機管理意識を高める。
- ・ 児童の不安感を取り除き、児童自身の安全に対する意識を高める。
- ・ 保護者との連携を深める。

今後、パトロールが、形骸化、マンネリ化しないよう、取組を継続していきたい。

### 3 実践校・園

#### (1) 学校名・規模

陶化小学校

学級数 7 児童数 202 職員数 22

#### (2) 地域の様子

学区は、京都駅の南、鴨川と竹田街道の間の九条通りに面した所に位置し、住宅や工場が混在した地域を形成している。

創立131年の歴史を持つ本校は、本校を卒業した保護者の児童も多いが、公団住宅に居住する児童も年々増加している。

また、本校には在日韓国・朝鮮籍児童をはじめ、様々な国籍を持つ児童の割合も高く、共に学び高め合うことを大切にしながら、日々の教育活動をしている。

(執筆者：校長 山田佳男)

# 校内巡視体制の定着と安全指導

～子どもが安心して学校生活を送るために～

## 1 取組の概要

### (1) 取組の趣旨

平成13年に、学校の安全管理について改めて見直しを行い、校内外の児童の安全確保に向けた取組を進めることとした。教職員が中心となり、PTAの協力も得て、一過性でない息の長い取組として定着できるよう工夫・改善に努めている。

### (2) 取組の内容及び方法

#### ① 教職員による校内の見回りについて

取組を始めた3年前は、毎日校内を見回る学年〔3名〕を決め、始業前・中間休み・昼休み・放課後と時間を区切って見回りを行ってきた。見回りのあとは、時間帯ごとの児童の様子についても記入し、防犯のみならず、遊びの様子や活動についての全校的な傾向をみることができ、生徒指導上も効果があった。

しかし、学年ごとに見回るという当番制は、授業の準備ができにくいなどの課題が見られた。

そこで、昨年より日直1名と担任外の2名の教員の計3名で、日常的に校内を見回る形に変えてきている。

緊急時における、一人一人の教職員が持っている笛や、防犯研修でのノウハウなど、有事の際の対応についても校内で作成したマニュアルをもとに意識化を図っている。

#### ② PTAによる協力

児童の登校時には地域の方とともに、PTAの会長や前会長が校門にたち、学校と公園の間を通る車がないよう、朝のあいさつとともに児童の安全確保に向けた全面的な協力をいただいている。

また、参観日や懇談会、運動会や学習発表会などの学校行事の際には、校門のところでPTAの役員さんが交代で、来校者の確認をいただいている。

#### ③ 登校指導

月に3回、教職員とPTAとが集団登校の

集合場所から一緒に登校したり交通の要所に立つなど、児童の安全確保に努める取組も3年目を迎えている。

## 2 実践の成果と反応

何よりも、校内の巡視を行うことで、教職員の危機管理意識がすこしずつではあるが高まってきている。外部からの不審者のチェックというだけでなく、児童の日常に目をやり、その場で適切な指導ができています。また、校内の危険箇所への立ち入りや遊具での遊びの様子など安全指導にも生かすことができています。

保護者もすべて学校任せという姿勢でなく、できる協力をし、児童の安全について改めて考えようとする意識も高まってきている。

## 3 実践校・園

### (1) 学校名・規模

葛野小学校  
学級数19 児童数567 職員数38

### (2) 地域の様子

本校は京都市の西部に位置し、西京極総合運動公園や校区を横切る国道9号線などの幹線道路が縦横に走っている。春は天神川の桜並木や菜の花畑など、自然の豊かな景観も残している地域である。区画整理により、街並みも整っており、マンションなどの集合住宅から通う児童も数多くいる。創立33年を数え、地域とのふれあい活動を大切に、新たな活動に取り組んでいる。

(執筆者：校長 外村 耕平)

# 子ども・保護者とともに行う防犯訓練

～子どもたち一人ひとりをどう守っていくのか～

## 1 取組の概要

### (1) 取組の趣旨

子どもたちにとって、安全であるべき学校内において昨今痛ましい事件が相次いで起こっている。

こうした近年の社会状況と子どもが小さい、教職員数が少なく、女性ばかりであるという実態から、本園においてもいつ不測の事態が起こりうるか知れないという危機感を強く抱き、保護者ととも防犯訓練に取り組むことで、子どもを犯罪被害から守れるのではないかと考えた。

### (2) 取組の内容及び方法

#### ① 防犯訓練をするにあたり

- ・ 子どもの発達を考えると個人差が大きい
  - ・ 「心を育てる」教育を大切にしている。
  - ・ 大人への不信感を抱かせるのではないかな。
  - ・ おびえる気持ちが強くなるのではないかな。
- このような留意点から、防犯訓練をどのように取り組めばよいのかとても悩んだ。

#### ② 園の実態を考えて

- ・ 本園は毎日を参観日として位置づけているので保護者の来園が多い。
- ・ 子育て支援の一環として、0歳から3歳までの未就園児とその保護者が毎日来園する。

#### ③ 願いは絶対に事件が起こらないこと

- ・ 子ども自身が自分の身を守る力をつける。
- ・ 保護者が常に幼稚園にいる条件を生かし、未然に防ぐ。また、不測の事態が起こったときに大人が子どもを守っていく。

<実践内容>

#### ① 教師の声（「たいへんや にげて」）を聞いて、大人のいるところに集まる

日時 平成15年12月15日 11時～

#### ② 教師の叫び（「たいへんや にげて」）を聞き、大人がいるところを確認し逃げる

日時 平成16年1月16日 11時15分～

#### ③ ホイッスルの音や教師の叫びを聞き、隣接する中学校に逃げる

日時 平成16年1月30日 9時30分～

## 2 実践の成果と反応

- ・ 「命を守る」ことを何があっても優先する。命あってこそ・・・を合言葉に、今後も繰り返し防犯訓練をおこなう。
- ・ 不測の事態についての訓練は大切であるが、防犯による被害を未然に防ぐための工夫・配慮がとても大切であることを保護者・教職員が共通理解した。

## 3 実践校・園

### (1) 幼稚園名・規模

楊梅幼稚園

学級数 2 園児数 20 職員数 5

### (2) 地域の様子

市内の中心部（烏丸五条）に位置し、尚徳中学校と隣接している。

烏丸通・五条通は、ビジネス街でにぎやかである。大通りに面していない幼稚園周辺は住宅街で、日中は人通りも少なく静かである。

隣接している中学校とは、互いの教育環境を生かし自然な交流を持ち、幼・中との連携を図っている。避難訓練についても、合同でおこなう場合もある。

地域はとても温かく、本園に協力的である。

（執筆者：園長 大野 照美）

# 防犯訓練を通じた危機管理体制の検証

## ～教職員による不審者の対応と速やかな通報～

### 1 取組の概要

#### (1) 取組の趣旨

校内への不審者の侵入を想定し、

- ① 不審者の状況を判断して、安全に対応する態度と習慣を身につける。
- ② 放送による合図や、指導者の指示に従って、落ち着いて安全に行動する。
- ③ 教職員は、本校の危機管理マニュアルに従い、組織的に行動する。

以上、3点を今回の取組の主な目的とするが、とりわけ、本訓練を通じて本校の危機管理体制の不備な点を明確にしなが、安全マニュアルのさらなる改善と、行動の徹底を図ることを目的としている。

#### (2) 取組の内容及び方法

##### ① 想定

不審者が校門より入り、本館へ移動。粗暴な言動をとるため、教職員が対応するとともに、生徒の安全を確保する。

##### ② 状況

校舎内に侵入し、生徒に対し危害が及ぶ恐れがある。また、粗暴な言動を目の前にし、生徒が恐怖を感じる恐れがある。

##### ③ 行動

緊急放送により、作業・学習を直ちに中断し、放送による指示があるまで教室待機を徹底する。その間に、教職員による不審者への対応、警察への通報、不審者の身柄確保、警察への引き渡し等を、マニュアルに従って行う。生徒の避難行動はせず、「緊急事態解消」の放送とともに、学校長より講評を聞く。

上記訓練終了後、教職員による訓練の総括を行い、全体の総評と改善点の確認。

### 2 実践の成果と反応

今回の訓練は、本校としては、不審者侵入を想定した初めての取組となった。今回は、生徒は教室待機のみで避難行動は行わなかったが、

避難行動や、教室への侵入を想定した訓練も今後は必要であると思われる。

また、中学生においては、不審者の校舎への侵入による被害もさることながら、登下校時における声かけ、連れ去り、通り魔事犯による被害に遭う可能性が高く、そうした被害から身を守るための訓練等が、今後必要であると思われる。

### 3 実践校・園

#### (1) 学校名・規模

九条中学校

学級数 8 生徒数 215 職員数 27

#### (2) 地域の様子

本校は、校区内を幹線道路が多く通り、今も京都の市街部と南部商業地域とを結ぶ道路拡張工事が進められている地域である。また、五重の塔で有名な東寺の門前町として栄えてきた伝統と歴史ある地域でもある。そうした歴史と伝統を背景に、地域住民間の連帯意識が高いのも本校校区の特徴である。

学校の歴史は古く、保護者には本校の卒業生も多い。また、多世代家庭も多く、「自分たちの学校」意識は強く、学校への期待も大きい。そういう点では、学校・家庭・地域が一体となった取組を展開する土壌は整っている。

一方、地域コミュニティの弱体化とともに、登下校時の不審者の出現や、校内への侵入が危惧され、今後、地域と一体となった取組が必要である。

(執筆者：校長 安達敏明)



# 養護学校における自主通学生徒の安全確保

## ～登下校時における危険を回避する態度の育成～

### 1 取組の概要

#### (1) 取組の趣旨

山科区及び醍醐地区、京都市内や大津方面で児童生徒に対する凶悪事件等が起こった場合の登下校時の安全確保を目的としている。

#### (2) 取組の内容及び方法

高等部生徒指導部が中心となり、高等部教員だけにとどまらず、場合によっては全校教員を動員して安全確保に当たっている。

様々な事犯が起こった場合、早朝8時頃から及び下校時に、国道東野から学校までの間の定点で教師が立つことや、集団登下校、集団引率して安全確保に努めている。

基本的に、自宅から交通機関を利用して、自分で学校に来る力のある子どもたちであり、危険を認知する力はある。その都度、起こった事柄の説明と状況理解を促している。様々な事犯が起こるたびに、その危険から自分の身を守るための具体的な方法を指導している。

学校から東野までの間にある交番やお店など、困った時に飛び込める場所を、歩いている途中で示して知らせる。また、歩いている人に助けを求めるために大声を出す。学校へ電話等で連絡する。

当然のことながら、日常的に安全に登下校することが重要であり、各個人の登下校時における課題に応じて指導は継続している。

高校生という年齢段階にあり、登下校ぐらい出来るという自負は当然持っている。登下校時において様々な事犯が起こった時に、いろいろな危険を予測し、それを回避することが必要である。そのために、自分で危険（問題）にあった時、それを回避（解決）する様々な方法を知るとともに、さらに実行できる力を身につけることを目指している。

### 2 実践の成果と反応

生徒自身の安全に対する意識が向上し、「今日は

こんなことがあったから、誰々と帰る」「こっちの道から帰る」など、事前に危険を意識し回避する態度が見られるようになってきた。

教員自身に、学校近辺の様子をつかもうとする気持ちが以前より高まっている。通学途上の変化に気づく発言が多くなっている。さらに、校外学習等において、車が多いなどの一般的な危険からくる歩き方の注意だけでなく、この子にとって、何を危険と感じ、どのように回避しているか、課題は何かという視点や意識が高まった。

### 3 実践校・園

#### (1) 学校名・規模

東養護学校  
学級数 40 児童生徒数 154 職員数 100

#### (2) 地域の様子

本校は知的障害養護学校であり、京都市の堀川通り以東を校区としている。

高等部においては、山科区及び伏見区醍醐地区に在住し、公共交通機関を利用して自分で通学できる生徒も在学している。彼ら自主通学生は自宅から国道東野又は国道大塚等まで、地下鉄やバスで来る。そこから学校まで歩いて通学している。現在29名の自主通学生が在学している。

登下校に関しては、どの生徒も自主通学できる力は持っている。

(執筆者：校長 北村 裕二)

# 養護学校生徒の自立に向けた安全指導

## ～緊急時の対応の仕方や安全への意識付け～

### 1 取組の概要

#### (1) 取組の趣旨

本校では、京都市全域から市バス・地下鉄などの公共交通機関を利用して登校しているため、自主通学が安全にできることを目標としてあげている。また、高等部卒業後の働くことを中心とした社会参加・自立に向けて、1人で目的地まで公共交通機関を利用できるようになることも大切な学習内容である。そのためには、日頃から緊急時の対応の仕方や安全への意識づけも指導の一貫として位置づけている。通学途中の市バス・地下鉄車内やバス停でのマナーについて、またバス停から学校まで徒歩通学での安全指導を行っている。特に不審者対応など、生徒の実態を十分把握し、生徒の様子を多面的にとらえて、日常の指導を実施している。

#### (2) 取組の内容及び方法

##### ① 通学路の安全指導

通学途中における安全指導については、不審者に対する対応を含めた通学指導として、生徒指導部を中心に期間を設定し、実施している。公共交通機関を利用する上でのマナーや不審者に対する対応などについては、各学年・各クラス、また、生徒それぞれの実態に合わせて指導をしている。

- ・ 通学経路の確認  
(各生徒の乗車系統・経路)
- ・ 通学路歩行中の安全やマナーについて
- ・ 不審者の接近に対する対応  
(見知らぬ人に声をかけられたり、車に誘われたりしても絶対についていけない等)

##### <指導の方法>

- ・ 生徒指導部を中心に学年や各分掌で、バス停や登下校の経路の定点で指導
- ・ 同方面での学年縦割りの集団登下校と安全指導

※ 校内への不審者侵入に対する安全対策の取組を強化していくために、不審者侵入時の対応、連絡体制、生徒避難経路の確認などの訓練を実施している。

##### ② 自立的な安全な生活を送るための指導

京都駅、四条河原町、北大路ターミナルなどの現地集合解散練習

- ・ 緊急対応についての指導として帰宅時の電話連絡や近くの家や人に助けを求めるなど、生徒自らができるように日常的に指導を行う。

### 2 実践の成果と反応

生徒一人一人が自立的・主体的な社会生活が送れると共に安全に対する意識については一定の成果が上がっている。

今後は、さらに保護者、地域との連携の中で、より安全に社会参加、自立ができるように取り組んでいくことが必要と考える。

### 3 実践校・園

#### (1) 学校名・規模

白河養護学校  
学級数 25 生徒数 127 職員数 69

#### (2) 地域の様子

白河養護学校は、大文字山が近くに見える左京区岡崎の地に位置した住宅地にある。

本校は、高等部だけの養護学校であり、生徒は、京都市全域から自主通学で登校している。

学校の周辺は、大変入り組んだ細い道が多くまた、車に対しての注意も必要な箇所があり、生徒たちへの登校については、通学路を指定し、入学当初より安全指導及び登校指導を徹底して行っている。

(執筆者：校長 森 脇 勤)

# 警察・消防と連携した防犯・応急手当研修会

## ～ 小学校長会東山支部研修会 ～

### 1 取組の概要

平成15年12月に、東山消防署から「応急手当の知識」小児編が発行され、東山支部内の小学校に在籍する児童の全家庭と教職員に配布された。体に異常があった場合、どのように対応するかがわかりやすく解説されているので、大変心強い手引である。時を同じくして、防犯に対する意識と危機管理の必要性が緊急に高まり、2つの研修会を支部全体で実施した。

#### (1) 取組の趣旨

防犯・応急手当の研修は、各校が必要とする研修である。加えて、地域や保護者に「学校が力をあわせて、地域の子どもの安全を守る取組をしてくれている」という安心感を少しでも持ってほしい、また、そのような研修をしていることを伝えることにより痛ましい事件の抑止力になればと考え、支部研修として実施した。

#### (2) 取組の内容及び方法

日時 平成16年1月7日(水)

午後2時30分～4時30分

場所 東山区総合庁舎3階 大会議室

対象 東山支部教職員全員

(約130名出席)

内容 ・防犯に対する基本的な構え

講師 松原警察署生活安全課長他2名

・応急手当(切り傷への対応)

講師 東山消防署警防課長他3名

- ① 校内への不審者の侵入を防ぐ手立てをとることが第一。

防犯カメラの活用、教職員のだれもが「どちらに御用ですか」という声かけ、不審者を一歩も校内へ入れない全教職員での対応、危機感と緊張感を持って人の出入りを確認するなど。

- ② 万が一、不審者が校内に入った場合

- ・ 児童同士が協力して不審者から遠ざかる。
- ・ 児童は助けを求め声を出す。
- ・ 教職員は不審者から児童を遠ざけ、不審者が

児童に関わらないように対応する。

日ごろの放送を聴く姿勢作りと、無意味な放送での呼び出しなどの制限。

- ③ 教室へ乱入した場合

- ・ どちらの入口から逃げ、どの階段を使うか。
- ・ どこへ避難するかなどの具体的な避難路の指示と確認が必要である。

- ④ 教職員同士の連絡

防犯ブザー、笛などの利用。職員室にも防犯用のモップなどを置いておく。

- ⑤ 職員室への連絡、全校放送、警察への通報、避難場所などの確認

- ⑥ 侵入者への対応

教室にあるものを利用(スクリーンを下ろす棒、机、いす、消火器、モップ、箒など)



### 2 実践の成果と反応

研修会の翌日、各校が研修会を開催し、具体的に、緊張感を持って話し合いができた。そして各校の防犯に対するマニュアルが作成された。

### 3 実践支部

小学校長会東山支部(学校数9 児童数1,165)

(執筆:六原小学校長 小 椋 義 一)

# 郵便局との連携による「動く子ども110番」

## 1 取組の概要

### (1) 取組の趣旨

附属池田小学校の事件後、各学校単位では児童の安全確保のために様々な取組が検討・実施されてきている。

当時、警察との協力で「子ども110番の家」が設置され、地域での安全にも目が向けられた。西京西支部では、ある小学校のPTA会長が特定郵便局の局長であったこともあり、支部校長会と支部PTA連絡協議会との連携を強め、洛西郵便局の協力により、地域での児童のより一層の安全確保のため「動く子ども110番」を実施することとなった。

### (2) 取組の内容及び方法

- ① 毎年、支部PTA連絡協議会において「動く子ども110番」のステッカーを作成し、支部PTA連絡協議会長と小学校長会支部長が洛西郵便局に届け、お願いをする。
- ② ステッカーを郵便局が使用するバイク・車等に貼って業務をしていただく。
- ③ 地域で児童が危険な目にあいかけたときには、ステッカーを貼っているバイク・車等に助けを求め、保護してもらったり警察に通報してもらったりする。
- ④ 支部内8校の児童・保護者にも周知徹底する。



## 2 実践の成果と反応

- ・ 児童・保護者の安心感が増す。
- ・ 地域への安全に関する啓発。
- ・ PTAとの連携もあり、PTAの安全に対する意識の高揚につながる。
- ・ 地域での犯罪抑止力ともなっている。

## 3 実践支部

小学校長会西京西支部  
学校数 8 児童数 3,430

### (地域の様子)

西京西支部は、北は山沿いの高地にある桂坂地域と大枝地域、西は古くからの大枝地域と大原野地域、南は長岡京市と向日市に隣接している。中央部は、40年ほど前に竹林を拓いてつくられた洛西ニュータウンがある。

従って、山間部もあれば新しい住宅群や公団・市営住宅など高層の集合住宅も林立している新旧併せ持った地域である。

(執筆者：上里小学校長 上原文子)